時を超えた二つの城下町

甲府市

現在の甲府駅周辺につながる甲斐国府中（甲府）の町並みは、中世では武田氏館跡を中心に広がっていた。その後、甲府城が築かれ江戸時代になると、町の中心は南へと移り、現在の甲府市中心街へとつながっていく。甲府は、中世と近世の二つの時代の城下町を堪能できる特徴的な場所である。

武田城下町

永正十六（1519）年に武田信虎が躑躅ヶ崎（甲府市古府中）の地に館を移し、信玄・勝頼の時代まで居所であるとともに甲斐国の政治を行う府中とした。室町時代の将軍の居所（御所）を意識した守護館や城下町が整備され、躑躅ヶ崎館（武田氏館跡㉕）から南へ通る大きな道は、現在でも武田通りとして親しまれている。この道沿いには武田氏家臣の屋敷が配された。鍛冶工房や神社仏閣も城下町に集められ、信玄が領主の時には京都五山などにならって甲府五山が定められた。現在は、家臣の屋敷を示す看板などが設置されており、神社仏閣とともに巡り、当時の姿に想いを馳せることができる。

甲府城下町

武田氏滅亡後、徳川氏家臣の平岩親吉が城代として甲府に入り、甲府城の築城が始まったとされている。その後、徳川氏は領地替えにより関東に移り、甲斐国は豊臣氏の勢力範囲となり、豊臣氏家臣の浅野長政らによって甲府城が完成された。内堀で囲まれた城を中心に、一の堀で囲まれた武家地、二の堀、三の堀で囲まれた町人地や神社仏閣が広がり、堀で区画された近世城郭の特徴を表している。横近習町や魚町通りなどの町や通りの名前、土地の区画などは今でも残っており、江戸時代の城下町の名残を感じることができる。

武田竜芳供養塔（聖道墓）

和田の城山跡

万寿森古墳

関屋

武田信玄火葬塚

河尻塚

㉑ 法泉寺
㉒ 万寿森古墳
㉓ 古八幡神社
㉔ 甲斐惣社八幡宮
㉕ 武田氏館跡
㉖ 躑躅ヶ崎亭跡
㉗ 円光院
㉘ 武田信玄火葬塚
㉙ 河尻塚
㉛ 御崎神社
㉜ 梅屋敷天満宮
㉝ 大泉寺
㉞ 妙遠寺
㉟ 愛宕神社
㊱ 甲府城跡
㊲ 長禅寺
㊳ 来迎寺
㊴ 尊躰寺
㊵ 教安寺

古八幡神社

甲斐惣社八幡宮

妙遠寺

梅屋敷天満宮

御崎神社

教安寺